



条件の良い圃場へ！排水(湿害)対策を万全に！ 10アールあたり、160kgを目指しましょう。

4月の好天が続かず、圃場の乾燥が進まない状況ですが、水田での耕起作業は元年に比べ、進んでいる状況となっております。

元年産大豆については、管内合計で11,808袋/30kg、10aあたり99.4kgの収量となっておりますが、令和2年産大豆については、さらに単収アップを狙って頂きたいと思っておりますので、播種量や基肥量の見直しをお願い致します。

◆ 排水対策

○額縁に(高低差のある圃場や大区画圃場は圃場内にも)明渠を設置し、確実に水尻と連結させて排水を促します。 ※弾丸暗渠・靱殻暗渠は数年間有効です。

◆ 耕起～播種作業

○圃場の乾き具合を考慮し、乾燥状態で一気に作業を進めましょう(あらかじめ播種前に耕起を済ませておいた場合、その間に降雨があるとなかなか乾燥できず、播種機の進入が困難になります)。無理な早播きは品質低下(しわ粒等)に繋がります。 ※出芽期の湿害回避に、小畝立て播種等の技術が有効です。

砕土率 … 2cm以下の土塊の割合70%以上を目標とする

○土壌改良はpH6.5を目標に改良材(苦土石灰等)を施用します。

《施肥例》※施用量は転作初年度～転作3年以降 (10a当り)

肥料名	施用量
・アグリフラッシュ	7～20kg (N成分:1.0～2.8kg)
・おまかせ大豆2(緩効性)	15～30kg (N成分:4～8.1kg)

《播種》 (10a当り)

播種時期	播種量
・5/下～6/上	5kg前後
・6/中～6/下	7kg前後

○播種前には、鳥害・病害虫防除と根粒菌(作付け初年度)の添加(8g/種子1kg当り)を施します。

(薬剤)

薬剤名	対象病害虫	使用量 (乾燥種子1kgあたり)
キヒゲンR-2フロアブル	紫斑病、(兼)鳥害防止	原液20mLを塗抹処理
クルーザーFS30	タネバエ・ネキリムシ類・アブラムシ類・フタスジヒメハムシ	原液6mLを塗抹処理
クルーザーMAXX	クルーザーFS30の害虫に加え、 茎疫病・黒根腐病・紫斑病および鳥害忌避	原液8mLを塗抹処理

※キヒゲンR-2フロアブルとクルーザーFS30は併用可能

※クルーザーMAXXを使用の場合、キヒゲンは必要ありません。

◆ 雑草対策

砕土率を高めて初期生育を確保し、大豆の生育を旺盛にすることで雑草の発生を抑えることができます。なお、播種後5日以内(大豆の出芽前)に土壤処理剤を散布して、中耕培土までの雑草の発生を抑えます。

《土壤処理剤》… 雑草発生前 (10a当り)

薬剤名	使用基準
・エコトップP乳剤	400～600ml/水100l
・エコトップP粒剤	4～6kg(極端な乾燥は効果が劣る)
・ラクサー乳剤(ツユクサを除く)	400～600ml/水100l
・プロールプラス乳剤	400～600ml/水70～150l

散布するときは周辺作物へ飛散しないように十分注意して下さい！！

※重複散布はしないように気をつけて下さい。

《茎葉処理剤(イネ科雑草発生の場合)》… 播種後20～25日 (10a当り)

薬剤名	使用基準	摘要
・ナブ乳剤	150～200ml/水100～150l	ノビエ3～5葉期(枯殺に約7～10日)
・ホーネスト乳剤	75～100ml/水100l	〃 9～10葉期(〃 約7～10日)
・ポルトフロアブル	200～300ml/水100l	〃 3～10葉期(〃 約1週間)

《茎葉処理剤(広葉雑草発生の場合)》… 大豆2葉期～開花前まで

・大豆バサグラン液剤	100～150ml/水100l (イネ科雑草には効果無し)
------------	-------------------------------